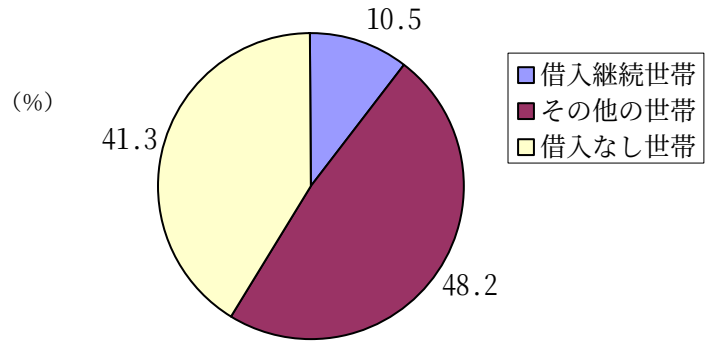
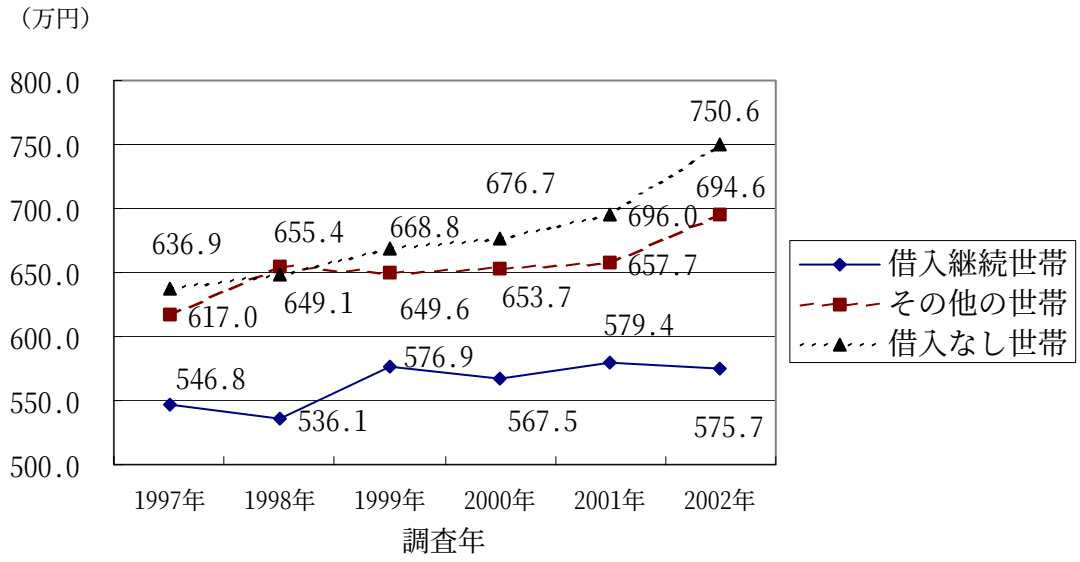
２．借入がある世帯とない世帯の間に大きなゆとりの差

２－１　借入残高が残り続ける家計は約１割

有配偶者の家計における借入行動のうち、住宅ローンを除く借入行動に着目したところ、各世帯を三つのタイプに分けることができた。第一のタイプは、1997年調査から2002年調査にかけて常に（住宅ローンを除く）借入残高が千円以上ある世帯（以下「**借入継続世帯**」）で、全体の10.5%にのぼる。一方、第二のタイプとして、同じ期間中に（住宅ローン以外の）借入が全くなかった世帯（以下「**借入なし世帯**」）があり、全体の41.3%を占める。残りの48.2%が、第三のタイプ（以下「**その他の世帯**」）である（図表４）。

図表４　借入タイプの分布



各世帯の夫妻年収に注目すると、このうち「借入なし世帯」と「その他の世帯」は、時間の経過に伴い着実に夫妻年収が増加していることがわかる（図表５）。前者では、1997年調査時の夫妻年収（1996年年収）は636.9万円で、2002年調査時（2001年年収）は113.7万円増加し750.6万円にまで達している。また後者では、1997年調査時の617.0万円から、2002年調査時には77.6万円増加して694.6万円となっている。しかし、第一のタイプ（「借入継続世帯」）については、1997年調査時に546.8万円で、2002年調査時でも575.7万円にとどまっている。「借入継続世帯」は、「その他の世帯」や「借入なし世帯」に比べて、一貫して夫妻年収が低く、収入の増加もあまりみられないという特徴があることがわかる。

図表５　借入タイプ別夫婦年収平均の推移